

1、2時		グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	20×3の計算を考える場面で⑩を書いたり、数玉を並べて数えたり、10をもとに九九で計算することを通して、何十×1位数の計算は、10をもとに乘法九九で計算ができることを理解することができる。	何十×1位数、何百×1位数の乗法の計算原理や方法を理解し、計算することができる。			
評価規準	何十×1位数の計算が10をもとに乘法九九で計算できる(表現処理)				
問題	1枚20円の工作紙を3枚買います。代金は何円でしょう。				
課題	20×3の計算の仕方を考えよう。				
まとめ	20×3の計算の仕方は、10をもとにして10が2×3の九九で考えることができる				
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>かけ算で解けると見通しを持つ</li> <li>立式する</li> <li>課題提示</li> <li>20×3の計算の仕方を考える(個人追求)</li> <li>磁石玉を使い計算の仕方を説明する</li> <li>自分の考え・計算の仕方を友達と話し合う。(ペア交流)</li> <li>いろいろな考えの中からはかせどんを出す。(全体交流)</li> <li>まとめ</li> <li>500×3を考える</li> <li>100をもとに考える(個人追求)</li> <li>100が15個あるので1500(全体交流)</li> <li>まとめ</li> <li>評価問題を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20円が3つあるということを確認させる。</li> <li>立式が出来ない児童には被乗数が1位数の問題を思い出させる</li> <li>考えが持てない児童には①や⑩の磁石玉を操作し考えさせる</li> <li>友達の考えを聞きそれをヒントにして自分の考えを持つ</li> <li>10が2×3で6こなので60</li> <li>10がいくつあるかをかぞえる</li> <li>磁石玉を使い考えさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題をつかみ見通しを持つ</li> <li>問題からわかっていること、求めることを見つけさせる。</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>20は10のいくつ分かを⑩で考えると2つ</li> <li>⑩が2×3で6こ</li> <li>20×3=60</li> <li>まとめ</li> <li>500×3を考える。</li> <li>500を100の5こ分とみる。</li> <li>100はいくつあるかを数えさせる。</li> <li>100の15個分で1500になる。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>代金が60円であることは分かるが2×3で計算していることには気づかない。</li> <li>どうして20×3の計算を2×3で行うのか意味が分からない。</li> <li>何十×1位数の計算ができない。</li> <li>何百×1位数の計算ができない。</li> <li>手立て</li> <li>お金の模型を使い⑩がいくつになるかを数えさせる。</li> <li>何十×1位数の計算は、⑩数を基に1位数×1位数の九九でできることを確認し乘法九九を言わせながら答えを確認する。</li> <li>何百×1位数の計算は、百が1位数×1位数の九九でできることを確認する。乘法九九を言わせながら答えを確認する。</li> </ul>	
3時		グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	2位数×1位数で部分積に繰り上がりのない乗法の計算を考える場面で、十の位と一の位の数を分け乗数をかけて、加えることができることを理解し、ひっ算のやり方を知る。	2位数×1位数で部分積に繰り上がりのない乗法の計算は、十の位と一の位の数を分けてかけ、加えることができることを理解し筆算で計算することができる。			
評価規準	2位数×1位数の計算原理や方法、筆算のしかたがわかる(知識・理解)				
問題	1本32円のえんぴつを買います。代金はいくらでしょう				
課題	32×3の計算のしかたを考えよう				
まとめ	かけ算の筆算の仕方:位をたてにそろえて書く。一の位十の位の順にかける。一の位の答えは、一の位の下に十の位の答えは十の位の下に書く。				
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>既習事項との違いに気づく</li> <li>立式をする</li> <li>課題提示</li> <li>32×3の計算のしかたを考える(個人追求)</li> <li>計算のしかたを友達と意見の交流をする(ペア交流)</li> <li>いろいろな考えからはかせどんを考えさせる(全体交流)</li> <li>32×3を筆算でする方法を知る</li> <li>まとめ</li> <li>32 × 3 → × 3 6</li> <li>32 × 3 96</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の問題とは違って1の位が2になっていることを確認する</li> <li>ヒントカード</li> <li>32×3の計算はかけられる数を30と2に分けて考える</li> <li>□×2=○</li> <li>□×2=△</li> <li>○+△=×になる</li> <li>かけられる数を位ごとにわけて計算する</li> <li>ひっ算の仕方を教師と一緒に全員で確認する(話方指導も含める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の計算の仕方をふり返る。</li> <li>問題をつかむ</li> <li>問題からわかっていること、求めることを見つけさせる。</li> <li>立式する。</li> <li>式:32×3の計算の仕方を考える。</li> <li>【お金を使って考える】</li> <li>10が3こで30と1が2こで2なのでそれぞれに3をかけて合わせる。 30×3=90 2×3=6 90+6=96 答え96円</li> <li>【式:ひっ算のやり方】</li> <li>ひっ算で計算する方法を学ぶ。(かけ算にもひっ算があり約束として考えていく)</li> <li>まとめ</li> <li>32 × 3 → × 3 6</li> <li>32 × 3 96</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>立式できない</li> <li>筆算の書き方が分からない</li> <li>手立て</li> <li>前時のノートを振り返り、1位数の乘法九九でできることを確認する。</li> <li>32をお金模型や⑩の磁石玉やカードを使って10のまとまりと1に分け全部をもとめる式を考える。</li> <li>位を揃えて書くことを位の数を確認しながら、数字を書いていく練習をする。</li> <li>初めに一の位の2にかけ、九九の答えを一の位のところに書く。3を十の位の3にかけ九九で求めた9を十のくらのところに書くことを教え練習する。</li> <li>ヒントカードで書き方の練習をする。</li> </ul>	

4時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	2位数×1位数で部分積が十の位に繰り上がる乗法を考える場面で、前時のひっ算を利用したり、被乗数を分解し考えたりを通して、ひっ算が早く正確だということに気づくとともに、ひっ算を正確に計算することができる		2位数×1位数で部分積が十の位に繰り上がる乗法の筆算の仕方を理解し計算することができる。	
評価規準	部分積にくり上がりのある2位数×1位数の計算原理を考える(見方・考え) ひっ算で計算できる(表現処理)			
問題	1こ29このクリップを3こ買います代金は何円でしょう。			
課題	29×3の計算の仕方を考えよう。			
まとめ	かけ算の筆算の仕方:十の位にくり上がった数を小さく十の位に書き、十の位のかけ算の答えに足して書く			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>既習事項との違いに気づく</li> <li>立式をする</li> <li>課題提示</li> <li>29×3の計算のしかたを考える(個人追求)</li> <li>計算のしかたを友達と意見の交流をする(ペア交流)</li> <li>いろいろな考えからはかせどんを考えさせる(全体交流)</li> <li>計算方法をおさえる</li> <li>くり上がりを忘れないようにするために十の位に小さくくり上がりを書く。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算言葉をもつてかけ算で立式することを押さえる</li> <li>ひっ算で解けた子どもには別な方法も考えさせる</li> <li>ヒントカード1 □ 29 に分ける □ □×3=○ □×3=△ ○+△=×になる</li> <li>ヒントカード2 29 × 3 □□□-① □□□-② □□□-①と②を合わせると ↓ 29 × 3 にしてみよう □□□</li> <li>ひっ算の仕方を教師と一緒に全員で確認する</li> <li>ひっ算のやり方がわからない子どもは個別に支援する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の計算の仕方をふり返る。</li> <li>問題をつかむ</li> <li>問題からわかっていること、求めることを見つけさせる。</li> <li>立式する。</li> <li>式; 32×3の計算の仕方を考える。</li> <li>個人追求・交流 【29を20+9とみた計算】 ・ 9×3=27 ・ 20×3=60 ・ 27+60=87 答え 87円 【筆算で考えると】 29 29 × 3 → × 3 7 27 6 29 × 3 87</li> <li>まとめ</li> <li>くり上がりを忘れないようにするために十の位に小さくくり上がりを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つまずき</li> <li>筆算の仕方が分からない</li> <li>筆算の書き方、位がずれている</li> <li>くり上がりの書き方が分からない</li> <li>○手立て</li> <li>前時のノートを振り返り、29を20+9とみて計算することの意味を考える。</li> <li>ヒントカードで、位を揃えて書くことを、位の数を確認しながら数字を書いていく練習をする。</li> <li>繰り上がった数をメモし、十の位を書くときに、忘れず加えることを確認しながら練習させる。</li> </ul>
5時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	2位数×1位数で部分積が1回百の位で繰り上がる乗法を考える場面で、前時のひっ算のしかたを利用したり、被乗数を分解し考えたりを通して、計算のしかたを考え、ひっ算で正確に計算することができる		2位数×1位数で、部分積が百の位に繰り上がる乗法の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。	
評価規準	百の位へくり上がりがある2位数×1位数の計算原理を考える(見方・考え方) ひっ算で計算できる(表現・処理)			
問題	72×3の計算をしよう			
課題	百の位がくり上がるひっ算のしかたを考えよう			
まとめ	かけ算の筆算の仕方:今までの筆算と同じように計算するが、百の位にくり上がった数は、そのまま大きく書く			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>既習事項との違いに気づく</li> <li>立式をする</li> <li>課題提示</li> <li>72×3の計算のしかたを考える(個人追求)</li> <li>計算のしかたを友達と意見の交流をする(ペア交流)</li> <li>いろいろな考えからはかせどんを考えさせる(全体交流)</li> <li>計算方法をおさえる</li> <li>くり上がりを忘れないようにするために百の位に小さくくり上がりを書く。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算言葉をもつてかけ算で立式することを押さえる</li> <li>ひっ算で解けた子どもには別な方法も考えさせる</li> <li>ヒントカード1 □ 72 に分ける □ □×3=○ □×3=△ ○+△=×になる</li> <li>ヒントカード2 72 × 3 □□□-① □□□-② □□□-①と②を合わせると ↓ 72 × 3 にしてみよう □□□</li> <li>ひっ算の仕方を教師と一緒に全員で確認する</li> <li>ひっ算のやり方がわからない子どもは個別に支援する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通し</li> <li>くり上がりがあることに気づく</li> <li>百の位へのくり上がりがある</li> <li>個人追求・交流全体交流 【筆算で考えると】 くり上がりの数を百の位の一に忘れないで書く</li> <li>正確に計算するための位を縦に合わせて書く</li> <li>組み立てた数で正確に計算する方法をとる</li> <li>まとめ 72 72 × 3 × 3 6 216</li> <li>○評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つまずき</li> <li>筆算が書けない</li> <li>繰り上がった数が加えられない</li> <li>筆算が正しくできない</li> <li>○手だて</li> <li>位を揃えて書くことを、位の数を確認しながら数字を書いていく練習をする。</li> <li>百の位に繰り上がった数を百の位に書くことを教える。</li> <li>繰り上がった数を、忘れず書くことを確認しながら練習させる。</li> </ul>

6時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	2位数×1位数で部分積が2回繰り上がる乗法を考える場面で、ひっ算のしかたを利用したり、被乗数を分解し考えたりすることを通して、計算のしかたを考え、ひっ算で正確に計算することができる		2位数×1位数で部分積が2回繰り上がる乗法を考える場面で、数玉を利用したり、被乗数を分解し考えたりすることを通して、計算のしかたを考え、ひっ算で正確に計算することができる	
評価規準	2回くり上がる2位数×1位数の計算原理を考える(見方・考え方) ひっ算で計算できる(表現・処理)			
問題	2位数×1位数の計算をひっ算でできる			
課題	72×6の筆算のし方を考えよう			
まとめ	くりが2回ある計算も一の位と十の位を別々に考えて今までの計算と同じようにできる。くり上がった数は小さく書く。くり上がった数を忘れずに			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>前時との違いに気づく(見通し)</li> <li>課題提示</li> <li>72×6のひっ算の仕方を考える(個人追求)</li> <li>ひっ算で計算した過程を友達と話し合う(ペア交流)</li> <li>2人を指名し発表をさせ全体で確認する(全体交流)</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時とは違って十の位がくり上がることに気づかせる</li> <li>前時で一の位がくり上がる時のことを思い出させる</li> <li>ヒントカード</li> </ul> $\begin{array}{r} 72 \\ \times 6 \\ \hline \square\square\square - ① \\ \square\square\square - ② \\ \hline \square\square\square - ①と②を合わせると \\ \downarrow \\ 72 \\ \times 6 \\ \hline \square\square\square \end{array}$ <ul style="list-style-type: none"> <li>72×6 にしてみよう</li> <li>ヒントカードの拡大図を用意しやり方を全体で確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>くり上がりがあることに気づく</li> <li>百の位へのくり上がりがある</li> <li>個人追究・交流全体交流【筆算で考えると】</li> <li>くり上がりの数を百の位のーに忘れないで書く</li> <li>正確に計算するための位を縦に合わせて書く</li> <li>組み立てた数で正確に計算する方法をとる</li> <li>まとめ</li> <li>くり上がりがある計算も一の位と十の位を別々に考えて今までの計算と同じようにできる。くり上がった数は小さく書く。くり上がった数を忘れずに足す。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>筆算が書けない</li> <li>繰り上がった数が加えられない</li> <li>筆算が正しくできない</li> <li>手だて</li> <li>位を揃えて書くことを、位の数を確認しながら数字を書いていく練習をする。</li> <li>十の位に繰り上がった数を十の位に小さく書くことを教える。</li> <li>繰り上がった数を、忘れず書くことを確認しながら練習させる。</li> </ul>
7時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのない乗法を考える場面で前時のことを思い出しひっ算でできることに気づきひっ算で解くことを通して、3位数×1位数もひっ算で計算することができる。		3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのない乗法でも「各位の数に分けてかけ、加えることによって計算できることを理解し、筆算で計算することができる。	
評価規準	3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や既習の乗法を用いて考える(考え方)			
問題	1回まわると312mのジョギングコースがありますここを3回走りました。全部で何m走ったでしょう			
課題	312×3の計算のしかたを考えよう			
まとめ	3けた×1けたのかけ算も今までの計算と同じようにできる。			
	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>既習事項との違いに気づく</li> <li>立式をする</li> <li>課題提示</li> <li>312×3の計算のしかたを考える(個人追求)</li> <li>計算のしかたの意見交流をする(ペア交流)</li> <li>いろいろな考えからはかせどんを考えさせる(全体交流)</li> <li>計算方法をおさえる</li> <li>3けた×1けたのかけ算も2けた×1けたの筆算と同じように順に書いて計算する(まとめ)</li> <li>評価問題</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3けたのかけ算ということを押さえる</li> <li>磁石玉を使わせる</li> <li>ヒントカード</li> <li>2けたのひっ算のやり方と対比させながら3けたのひっ算を考えさせる</li> <li>3けた×1けたのひっ算のしかたを全員で確認する</li> <li>ひっ算ができない子どもは集めてもう一度一緒に解いていく</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>3けたの×1けたの筆算に気づく</li> <li>くり上がりがない</li> <li>個人追究</li> <li>【筆算で考えると】</li> <li>一の位からかけ一の位の下に積を書く</li> <li>順に十の位も十の位の下の下に積を書く</li> <li>【312を300+10+2として考えると】</li> <li>300×3=900</li> <li>10×3= 30</li> <li>2×3= 6</li> <li>900+30+6=936</li> <li>答え936m</li> <li>まとめ</li> <li>3けた×1けたのかけ算も2けた×1けたの筆算と同じように順に書いて計算する。</li> <li>評価問題を解く</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>筆算が書けない</li> <li>百の位をかけることができない</li> <li>手立て</li> <li>筆算の仕方を確認させる</li> <li>ヒントカードに書き込んで正しい書き方をおぼえる。</li> <li>2×3 10×3 300×3の意味を考えさせる</li> <li>位を揃えて書くことを、位の数を確認しながら数字を書いていく練習をする。</li> <li>かける数を一の位、十の位、百の位へと順にかけ、答えを順に書いていく。</li> </ul>

8時	グリーンコース	オレンジコース		
ねらい	3位数×1位数で部分積に繰り上がる乗法や被乗数に空位のある乗法でもひっ算できると気づきひっ算で計算することを通して、どのような3位数×1位数の計算もひっ算で解くことができる。	3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある乗法や被乗数に空位のある乗法でも各位の数に分けてかけ、加えることによって計算できることを理解し、筆算で計算することができる。		
評価規準	＜表現・処理＞3位数×1位数で部分積に繰り上がりがある場合や被乗数に空位のある乗法を筆算で計算することができる。			
問題	次のかけ算を筆算で計算しよう ①389×6 ②309×5 ③380×5			
課題	十の位、百の位、線の位に繰り上がる数を考えて、3けた×1けたの筆算をしよう			
まとめ	1けたのかけ算で繰り上がりがある計算も今までと同じようにできる。かけられる数に0があっても部分積の0や何十の意味を忘れないで確かめよう。			
	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>見通しを持つ</li> <li>課題提示</li> <li>ひっ算を使って解く(個人追求)</li> </ul> $\begin{array}{r} 389 \\ \times 6 \\ \hline 54 \\ 2334 \\ \hline 2334 \\ \times 6 \\ \hline 18 \end{array}$ $\begin{array}{r} 309 \\ \times 5 \\ \hline 1545 \end{array}$ $\begin{array}{r} 380 \\ \times 5 \\ \hline 1900 \end{array}$ <ul style="list-style-type: none"> <li>ひっ算の過程を黒板で説明する(全体交流)</li> <li>1の位から順に部分積を求め繰り上がりは小さく書く。</li> <li>十の位の部分積を求め繰り上がりは足して計算する。</li> <li>百の位の部分積を求め繰り上がりは足して千の位に書く。(まとめ)</li> <li>評価問題</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひっ算でできることを確認する</li> <li>位がわかっていない児童にはマスの入ったプリントを渡し位をそろえて書くことを意識させる</li> <li>かける数を一の位から順にかけて、計算する。</li> <li>全員が解けることを確認する</li> <li>できていない子どもは前に集め教師と一緒に解いていく</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>①どの位も繰り上がりがある</li> <li>②十の位に0がある</li> <li>③一の位に0がある</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>①十の位百の位千の位へ繰り上がる 順に繰り上がり小さく書き、足し算をしていく</li> <li>②309は300と9と考え、5倍する考えに立って計算する</li> <li>③380は300と80と考え、5倍する考えに立って計算する</li> </ul> <p>【筆算で考える】</p> $\begin{array}{r} 389 \\ \times 6 \\ \hline 54 \\ 2334 \\ \hline 2334 \\ \times 6 \\ \hline 18 \end{array}$ $\begin{array}{r} 309 \\ \times 5 \\ \hline 1545 \end{array}$ $\begin{array}{r} 380 \\ \times 5 \\ \hline 1900 \end{array}$ <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> <li>1の位から順に部分積を求め繰り上がりは小さく書く。</li> <li>十の位の部分積を求め繰り上がりは足して計算する。</li> <li>百の位の部分積を求め繰り上がりは足して千の位に書く。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>筆算が書けない</li> <li>繰り上がりの数を忘れる。</li> <li>空位を0にしてしまう。</li> <li>0を書き忘れて位が曖昧になってしまう</li> <li>手だて</li> <li>ヒントカードの枠に入れて計算していく。</li> <li>位を揃えて書くことを、位の数を確認しながら数字を書いていく練習をする。</li> <li>部分積を確認する。</li> <li>309×5 39×5との違いを考えさせる。</li> <li>かける数を一の位、十の位、百の位へと順にかけ、答えを順に書いていく。</li> </ul>
9時	グリーンコース	オレンジコース		
ねらい	具体的な問題場面を通して、乗法の結合法則が成り立つことを理解する。			
評価規準	＜知識・理解＞乗法の結合法則の意味が分かる。			
問題	1に90円のプリンが1パックに3つずつ入っています。2パック買うと代金はいくらになるでしょう。			
課題	言葉の式を考えよう			
まとめ	3つの数のかけ算でははじめの2つの数を先にかけてもあとの2つの数を先にかけても答えは同じ			
	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>式を作り答えを出す</li> <li>2つの考えを発表する</li> <li>課題提示</li> <li>90×3×2と3×2×90の式の意味をそれぞれ考える(個人追求)</li> <li>式の意味を話合う(ペア交流)</li> <li>全体交流</li> <li>まとめ</li> <li>評価問題</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算でできることを確認する</li> <li>式が立てられない児童にはブロックを渡し具体物を使って立式させる</li> <li>式の意味につまずいている場合ヒントカード</li> </ul> $\begin{array}{r} 90 \times 3 \times 2 \\ \downarrow \downarrow \downarrow \\ \square \square \square \square \square \square \end{array}$ <p>□に言葉を入れよう 計算の順序は違いますが□は同じになる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かつこの意味を全体で確認する</li> <li>つまずいている子どもは前に集めてもう一度確認する</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>問題をつかむ</li> <li>問題からわかっていること、求めることを見つけさせる。</li> <li>立式する。</li> <li>2つの考え方 (90×3)×2の考え方を言葉で話す。</li> <li>90×(3×2)の考え方を言葉で話す。</li> <li>個人追究・交流</li> <li>あやかさんの考え 90×3=270 270×2=540 答え540円</li> <li>ゆうきさんの考え 3×2=6 90×6=540 答え540円</li> <li>まとめ</li> <li>3つの数のかけ算でははじめの2つの数を先にかけても、あとの2つの数を先にかけても答えは同じ。</li> <li>(90×3)×2=90×(3×2)</li> <li>評価問題</li> </ul>	<p>個の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>2つの具体的な場面での立式ができない</li> <li>二人の考え方が分からない</li> <li>手だて</li> <li>具体物で話の内容を理解させる。</li> <li>1パックの値段を求める。2パックの値段ではいくらになるかを半具体物で考えさせる。</li> <li>全部でいくつのプリンがあるかを出し、1個分90円であることから立式する。</li> </ul>

10時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	乗法を使って答えを求める場面で数量関係を言葉の式を用いて表すことができる		乗法を用いる具体的な場面について考え、数量の関係を言葉の式を用いて一般的にまとめることができる。	
評価規準	<表現・処理>乗法の場面が、1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ ということばの式に表されることが分かる。			
問題	「あ」にも「い」にも合うことばの式をつくりましょう。			
課題	「あ」「い」のことばの式を一般的なことばの式にまとめよう。			
まとめ	「あ」と「い」のことばの式は、1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさを表すことができる			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>「あ」と「い」を立式する</li> <li>課題提示</li> <li>1この値段×買う数＝全体 (個人追求)</li> <li>2つの言葉の式を合わせどんな問題にも使えるように一般化する (全体交流)</li> <li>「あ」と「い」のことばの式は、1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ で表すことができる(まとめ)</li> <li>評価問題P.28 えんぴつ1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算でできることを確認する</li> <li>どんなことばを入れればよいか わからない時は問題を見直させ言葉を見つけさせる</li> <li>評価問題ができない前に集め言葉の意味をもう一度確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>内容をとらえる</li> <li>ことばの式にすることを確認する</li> <li>立式した数について1つ1つの意味を確認していく</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>「あ」「い」を数式で表す。</li> <li>1このねだん・買う数・代金</li> <li>1本分のかさ・本数・全体のかさなどのことばを使うことをヒントとして話す。</li> <li>まとめ</li> <li>「あ」と「い」のことばの式は、1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ で表すことができる。</li> <li>評価問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>どんな問題の意味なのか分からない</li> <li>言葉が分からない</li> <li>手だて</li> <li>カードいくつか準備し、意味を考えさせる。</li> <li>カードと数との関係を考えさせる。</li> <li>カードを並べてことばの式を作る。</li> </ul>
11時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	乗法を利用して問題を解く場面で、言葉の式で考えたり、テープ図に数を書いたり数直線で表すことを通して、数量関係を理解し立式し問題を解くことができる		乗法を利用して問題を解く場面で、言葉の式で考えたり、テープ図に数を書いたり数直線で表すことを通して、数量関係を理解し立式し問題を解くことができる	
評価規準	乗法の場面で、数量の関係をテープ図と数直線で表した図を用いて立式し解くことができる<表現・処理>			
問題	バスが3台あります。1台に45人ずつ乗れます。全部で何人乗れるでしょう。			
課題	言葉の式や図を使って考えよう			
まとめ	1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ テープ図やことばの式で表すことができる			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>わかっていること、聞いていることを確認する(見通し)</li> <li>立式する</li> <li>課題提示</li> <li>言葉の式で考える、数直線を使って考える(個人追求)</li> <li>1つ分は45、3いくつ分を表すので45×3＝135です</li> <li>テープ図に記入をして説明をする(全体交流)</li> <li>1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ</li> <li>テープ図やことばの式で表すことができる。(まとめ)</li> <li>評価問題 P23 えんぴつ2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がわからない前時の学習を振り替えさせる</li> <li>テープ図の意味がわからない1つ分の大きさが1のとき、1つ分の大きさが2のときと数を増やしていく場面をヒントカードによって考えさせる</li> <li>言葉が書けない児童前に集め一緒に確認していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>問題をつかむ</li> <li>問題からわかっていること、求めることを見つけさせる。</li> <li>立式する。</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>3や45が何にあたるかを考える。</li> <li>「1つ分の大きさ」「いくつ分」「全体の大きさ」は示された図でどこに表されているか話し合う。</li> <li>全部の人数は45×3＝135</li> <li>答え135人</li> <li>まとめ</li> <li>1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ</li> <li>テープ図やことばの式で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>ことばの意味が分からない</li> <li>ことばの式が立式できない</li> <li>手立て</li> <li>45と3は言葉で何になるのかをカードから考えさせる。</li> <li>テープ図に数を書き込ませる。</li> <li>ヒントカードにより並べ方を考えさせる。</li> <li>立式する 45×3</li> <li>式からことばの式にかえ一般化する。</li> </ul>
12時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	具体的な問題場面で自ら被乗数を決め、乗法の計算に取り組む			
評価規準	<関心・意欲態度>乗数が1位数の乗法の計算に進んで取り組もうとする。			
問題	教科書P25の練習問題を解こう			
課題	2、3けた×1けたのかけ算になれよう			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>ノートに練習問題を解いていく(個人追求)</li> <li>2、3、4番の問題を黒板で説明する</li> <li>答え合わせをする(全体交流)</li> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひっ算ができない前に集め1問一緒に考える</li> <li>問題文を書かせる</li> <li>文章が理解できないわかっていること、聞いていることを確認し前時の学習を確認させ言葉の式を考えさせる</li> <li>できてしまった子にはプリント学習をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>個人追究</li> <li>ノートに考えをまとめる。</li> <li>式を書き、筆算で求める。</li> <li>全体交流</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>間違えた所、質問をして課題解決する。</li> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずき</li> <li>式を筆算にできない</li> <li>問題の意味が分からない</li> <li>手立て</li> <li>筆算が正しく書けているか見届ける。</li> <li>不安な児童には、1問ずつ答えの確かめをして自信を持たせる。</li> <li>意味の分からない問題は、図やヒントカードで分かりやすく示す。</li> </ul>

13時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	具体的な問題場面で自ら被乗数を決め、乗法の計算に習熟する。			
評価規準	乗数が1位数の乗法の計算に進んで取り組もうとする(関心・意欲)			
問題	2けた×1けたになる問題を作ろう		□にいろいろな数を入れて、答えを求めましょう。	
課題	友達問題をたくさん解いて計算になれよう		□にいろいろな数を入れて、筆算で答えを求めよう。	
まとめ	□にいろいろな数を入れて筆算で計算する場合かけられる数が4けたになっても一の位十の位百の位千の位と順にかけ算していくことができる。			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>2けた×1けたになる問題をつくる(問題作り)</li> <li>課題提示</li> <li>友達の作った問題を解く(交流)</li> <li>数人の問題を取り上げ全員で解く(全体交流)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな問題を作れば良いかわからない</li> <li>教科書P25を見せ同じように作ってみよう助言する</li> <li>かけ算にならない問題</li> <li>1度本人にお立式、答えを出させなぜかけ算にならないのか考えさせる</li> <li>かけ算言葉を掲示しておく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通し</li> <li>□にどんな数が入りそうか話し合う。</li> <li>3けたの数</li> <li>3けたより小さい数</li> <li>3けたより大きい数</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>□に入れる数を決める。</li> <li>立式して、計算する。</li> <li>答えが正しいかを全体交流する。</li> <li>まとめ</li> <li>□にいろいろな数を入れて筆算で計算する場合かけられる数が4けたになっても一の位、十の位、百の位、千の位と順にかけ算していくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまづき</li> <li>式を筆算にできない</li> <li>問題の意味が分からない</li> <li>手立て</li> <li>筆算が正しく書けているか見届ける。</li> <li>不安な児童には、1問ずつ答えの確かめをして自信を持たせる。</li> <li>意味の分からない問題は、図やヒントカードで分かりやすく示す。</li> </ul>
14時	グリーンコース		オレンジコース	
ねらい	2,3位数×1位数の計算習熟の場面でたくさん問題に取り組むことで2,3位数のかけ算のひっ算に習熟する			
評価規準	2,3位数のかけ算のひっ算ができる(表現・処理)			
問題	教科書P26の「まとめよう」の問題を解きましょう			
課題	今まで学んだ方法を使って問題を解こう			
学習活動	主な学習活動	個の指導・援助	主な学習活動	個の指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題提示</li> <li>課題提示</li> <li>今まで学習してきたことをもとに自分のペースで問題を解いていく(個人追究)</li> <li>全体で答え合わせをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひっ算で解いているか確認する</li> <li>ひっ算の位がそろっているか確認する</li> <li>くり上がりが書いてあるか確認する</li> <li>ヒントカードを用意し自由に使って良いことにする</li> <li>低位の児童は積極的に丸付けをし自分の答えに自信を持たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の練習問題でこれまでの学習の習熟を図る。</li> <li>「まとめよう」の練習問題に取り組む。</li> <li>個人追究・全体交流</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>間違えた問題については、もう一度考える。</li> <li>自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまづき</li> <li>式を筆算にできない</li> <li>問題の意味が分からない</li> <li>手立て</li> <li>筆算が正しく書けているか見届ける。</li> <li>計算が正しくできているか見届ける。</li> <li>不安な児童には、1問ずつ答えの確かめをして自信を持たせる。</li> <li>意味の分からない問題は、図やヒントカードで分かりやすく示す。</li> </ul>











|